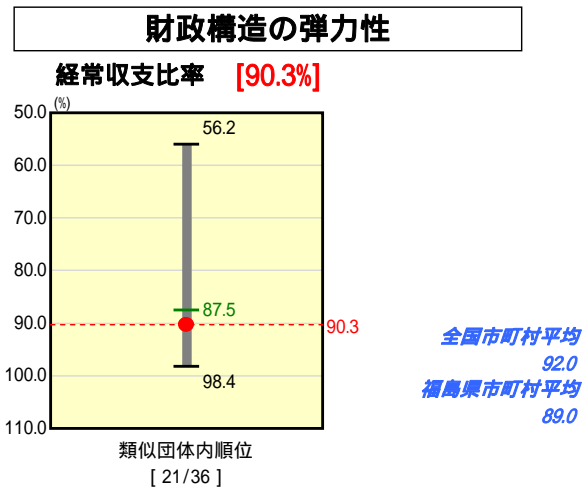
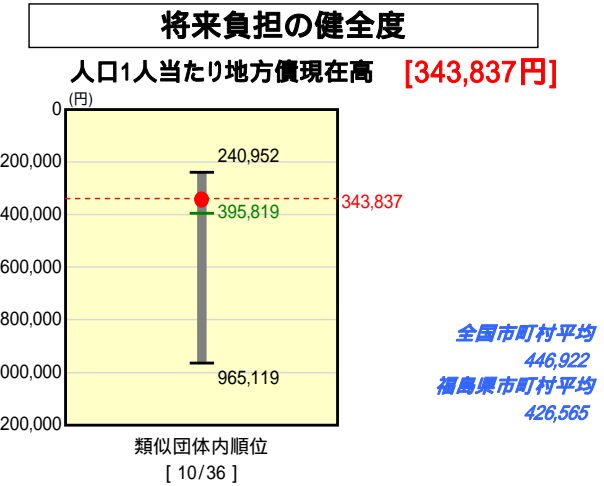
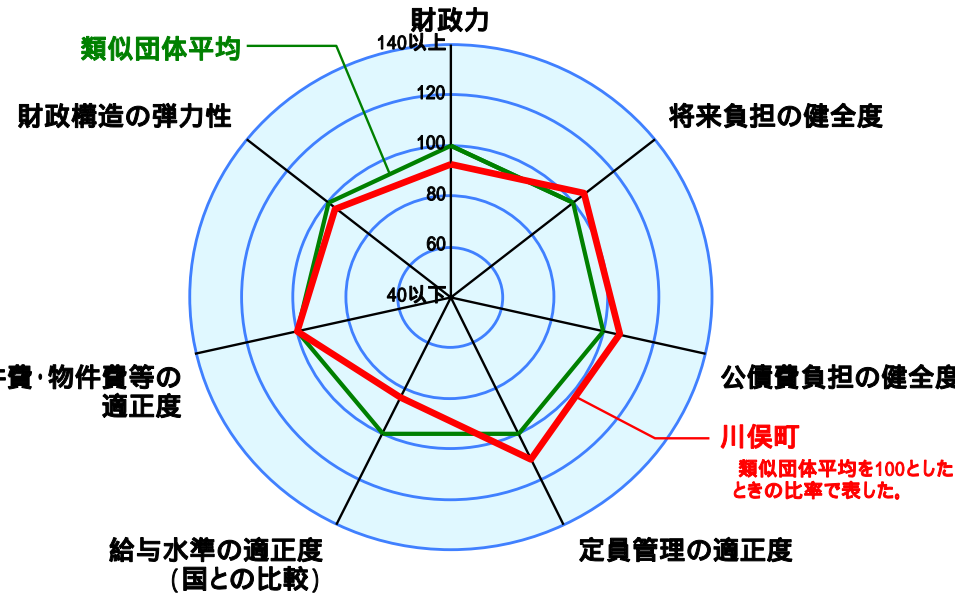
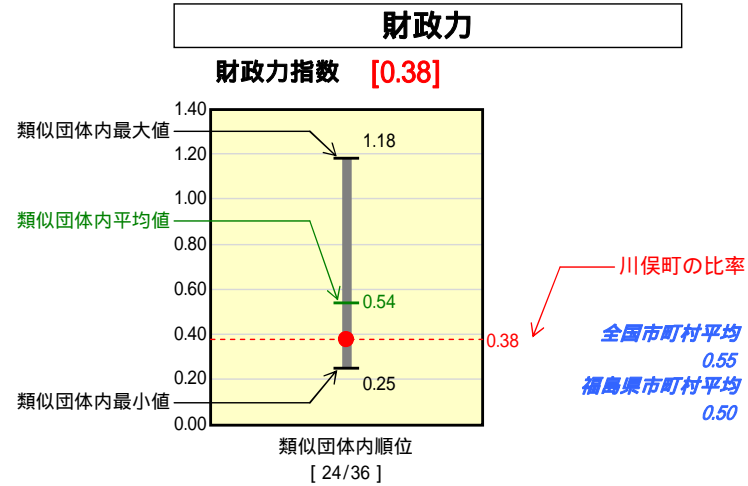


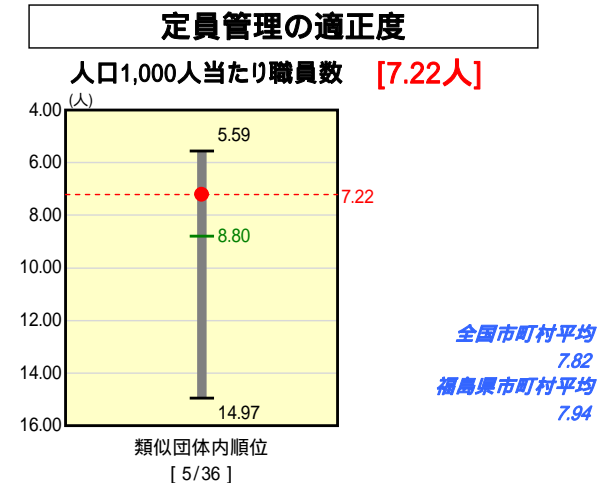
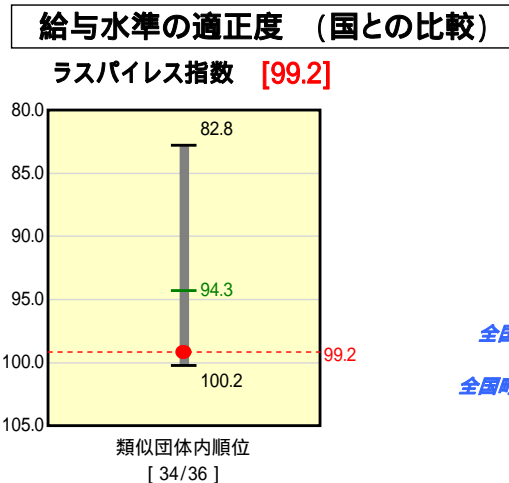
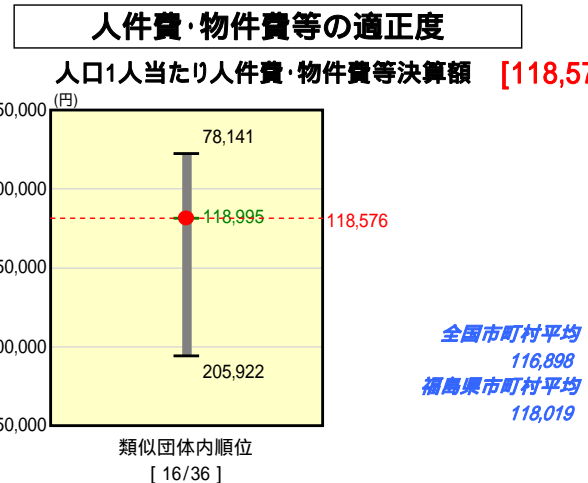
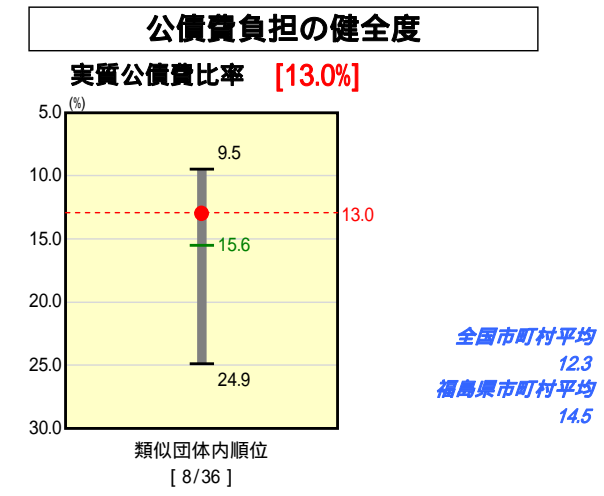
# 市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

## 福島県 川俣町

人口	16,615人	(H20.3.31現在)
面積	127.66	km <sup>2</sup>
歳入総額	5,141,731	千円
歳出総額	5,061,854	千円
実質収支	79,877	千円



類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。  
平成20年4月1日以降の市町村合併により消滅した団体で実質公債費比率を算定していない団体については、グラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。  
ラスバイレス指数及び人口1,000人当たり職員数については、平成19年地方公務員給与実態調査に基づくものである。なお、平成19年度中に市町村合併を行った団体については、当該項目に係るデータのグラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。



人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

### 分析欄

**財政力指数**  
0.38と昨年0.37と比べて1ポイント改善している。類似団体平均0.54をまだまだ下回っているが、町としては年々少しずつ財政力を上げてきている。今後も、適切な歳出管理と歳入の確保に努めていく。

**経常収支比率**  
昨年よりも0.1ポイント上げて90.3となったものの、昨年同様90を超えており、弾力性に欠ける財政運営となっている。類似団体平均と比較しても高い水準となっており、今後も引き続き事務事業の見直しに努め、歳出の削減を行っていく。

**実質公債費比率**  
地方債の新規発行の抑制や普通建設事業に係る起債の償還の完了により、前年度より2.4ポイントほど改善した。実質公債費比率は他の類似団体よりも低く抑えられているが、今後もさらなる負担増にならないように努めていく。

**人口1人当たり地方債現在高**  
前年度と比較して13,267円低下して343,837円となった。今後も、各事業における地方債の発行の抑制等により、類似団体平均よりも低い水準を維持していく必要がある。

**ラスバイレス指数**  
国から1年遅れて新給与制度に移行したことに加え、19年度は国よりも改定率の高い県人事委員会勧告に準拠して給与改定を行ったため、全年度比較して1.3ポイント上昇した。ほかの類似団体と比較して高い水準であるので、職員手当の総点検を行うなど、より一層の適正化に努める。

**人口1,000人当たり職員数**  
構造改革プログラムに基づく人件費抑制策による新採用抑制や退職勧奨推進の結果、7.22人と類似団体を下回っている。今後も適正な定員管理に努める。

**人口1人当たり人件費・物件費等決算額**  
前年度より4,470円増加して118,576円となったものの、引き続き類似団体平均より低い水準を維持している。依然として、物件費が類似団体より高い水準であることが数値を引き上げる要因となっていることが推測されるので、今後も人件費と合わせて物件費の抑制に努める必要がある。